

白藍塾オリジナル

2013入試小論文分析&解答のヒント

2013年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・樋口裕一・大原理志・大場秀浩

●慶応・看護医療学部

例年は、課題文に設問2つがついていたが、今年は設問が3つに増えた。そうした違いはあるものの、難易度は例年にくらべて易しいと思っただけで差し支えない。設問で何が問われているかをつかめば、解答自体は難しくない。したがって、恐れる必要はない。

課題文は、アントワヌ・ド・サン＝テグジュペリの『星の王子さま』からの抜粋だ。王子さまが、自分の住んでいた小さな星から旅に出て、地球に降り立ち、いろいろな経験をしたあと、狐と出会って、大きな心の変化が生じた場面だ。『星の王子さま』という物語全体の中でも、最も重要な場面だが、設問は『星の王子さま』を読んだことのない人でも、課題文として用いられた場面を読むだけで十分わかるようになっているので、心配には及ばない。

では、各設問を順に見ていこう。

問題1は、下線が引かれている部分の狐のセリフ「辛抱強くすることだよ」とは具体的にどのようなことかが問われている。これについて体験を踏まえて書くように求められている。下線部で語られているのは、友だちを作るには時間がかかるし、友だちはお金では買えないということだが、下線部だけではなく、課題文全体から、仲良くなる、すなわち、かけがえのない関係を築くとはどういったことなのかを読み取っておく必要がある。具体的には、下線部の引かれている部分を含む段落の1つ前の段落で狐が語っている内容、そして最後から2つめの段落で王子さまがバラに対して語っている内容が読み取れていればよい。そうすると、辛抱強くすることは、時間をかけて心理的な距離を縮めていくことで、安定した関係にするには、相手がこちらの行動を予測して期待できるようなルールが必要だということ、そして、相手のために手間を惜しまず何かをすることだとわかる。こうしたことを次のような構成で書くとよい。

第1部は、ずばりと「辛抱強くするのは、相手と仲良くなり、かけがえのない関係を築くためには、時間も手間もかかるということだ」と結論から書き始め、第2部では、「確かに、現代社会では携帯電話やメールなどのために気軽に付き合えるが、本当にかげがえのない

関係を築くには、時間も手間もかかる」と述べる。そして、第3部で、まず自分の体験を書き、体験に即して、かけがえのない関係を築くには、なぜ時間も手間もかかるのかをくわしく説明する。具体的に、ある程度の摩擦や誤解などが経てこそ、別の考え方をしている人と仲良くなれることを説明するとよい。第4部は全体をまとめる部分だが、与えられた字数が400字と短く、最初に結論から始めているので、これは省略してもかまわない。

問題2は、狐の言う「麦畑の色がある」とはどういうことかが問われている。課題文中の狐の説明によれば、「麦畑の色がある」とは、麦畑の色が王子さまの髪の色を思い出させるし、王子さまと仲良くなったあとでは、麦畑の色を見ただけで、王子さまと一緒にいるときの気分になれるということだ。このことを、基本型Aを用いてまとめるとよい。まず、麦畑の色によって王子さまを思い出させることができるということを言い、次いで、どうして王子さまを思い出させるのか、その結果、どんな気持ちになるのかを課題文中の狐の説明に即してまとめればよい。

問題3は、「ぼくはぼくのバラに責任がある……」とは何を意味しているかが問われている。これは、最後の段落の狐のセリフを解釈すれば解答できる。王子さまは、他の多くのバラたちと自分のバラとは全く違うことを、世話をしたかしないかで区別している。しかし、狐は、バラのためにかけた時間が大切だと言う。これは、相手のために過去に何をしたかではなく、かけがえのない関係を結んだら、その関係を継続させることが大切だということだろう。このことが、「責任」という言葉で表されている。こうしたことを基本型Aか基本型Bでまとめればよい。

このように、今年のテーマは、人間関係をどう築くかだ。人間関係の築き方やコミュニケーションのあり方については、患者と人間的な関係を築いてケアを行ったり、チーム医療を行なう上でも、看護師は常に考えなくてはならない。そのため、看護系では頻出のテーマだ。このテーマについては普段から考えておこう。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室 (03-3369-1179)

<http://www.hakuranjuku.co.jp>